

# 「人間を科学する」イリユージョンライブ

人間科学部 人間科学科1年 武田 千尋

白田 夏実

先日行われたオープンキャンパスや大学祭で、私たち人間科学部は、「イリユージョンライブ[irijinda]」というイベントを開催しました。心理学の知覚・感覚の分野を使った実験で、心と体、人間の不思議を体験してもらうという企画を行い、イベント中、高校生だけでなく一般の方々にも様々なイリユージョンを体験してもらいました。

人間科学部は2006年度から設立された新設学部で、まだ馴染みのない学部です。そのため、このイリユージョンライブには、身近に存在する心理学を楽しく体験してもらい、わかりやすく説明していこうというだけでなく、新設学部のアピールもしていこうという狙いがこめられていたのです。参加したメンバーの力の入力方も並ではありませんでした。ちなみに、私た

ちの学部は2年次から「心理発達コース」、「人間社会コース」、「スポーツ健康コース」と3つのコースに分かれるのですが、今回のこのイリユージョンライブで行ったことは、「心理発達コース」の担当分野にあたります。大抵の人が想像しているものとは少し違い、難しい気がしてしまうのが実際の心理学です。ただ実験をするだけでは面白くありません。いかに楽しませるか、というのがひとつの課題であり、そのため色々な工夫を施しました。では、実際に私たちがこのイベントでどのようなことをしたのか、一部ですが紹介したいと思います。

まずはシャルパンティエの錯覚と呼ばれるものです。これは知覚心理学の中でも有名な、体積と重さに関する錯覚の実験のひとつです。今日の前に、大きいクマのぬいぐるみと小さなク

マのぬいぐるみがあると思います。どちらが重いと思いますか、と聞かれたとき、大勢の人は大きいクマと答えます。しかし、実際に大きいクマから順に抱き上げてもらうと皆口をそろえて「小さいクマのほうが重い」と言います。しかし、このクマはどちらも全く同じ重さなのです。イリユージョンライブのときに体験に来てくれた人たちも皆驚いてくれました。ではなぜ、同じ重さなのにも関わらず、小さいクマのほうが重く感じてしまったのでしょうか。答えは、私たちが日頃の経験から「体積と重量は比例している」と思い込んでしまうからです。大きなクマを持ったときの重さを基準にして、後から小さなクマを持ったので、小ささの割に、重いということで「小さいほうのクマが重い」と感じたのです。これは脳の思い込みによるものなので

す。「まさか嘘だろう」と思う人は次のイリユージョンライブには是非足を運んでみて下さい。思っている以上に違いがはっきりわかることだと思います。

そして次に、色についてです。同じ色を見続けてから白を見ると、そこに見続けていた色とは反対色の残像が見える、「色の残像」というものを体験してもらいその仕組みを説明したり、そのほか色彩心理学についての話をしたりしました。例えば、実は人は色に行動を左右されている場合があるということなどです。赤い部屋と青い部屋では体感温度が違いますし、同じ部屋でも暖色系の壁の方が広く見えます。ついつい目が言ってしまう街頭の広告なども実は目を向けられるように様々な色彩の工夫がなされています。実は人間は周りの情報を集めるとき、80%以上も視覚によって得ていると言われていきます。色の隠れた効果、知っていると色々なことに効率的に活かせると思いませんか。

以上述べた二つの実験のほかにも様々な実験を行いました。これらは主に目による錯覚です。入学したての何の知識もない私たちにとってこの目や錯覚という分野は未知の世界であり、資料集めや制作などは非常に労力を費やしましたが、準備、実演などを通して、自分たち

の理解や関心が深まりました。そしてそれだけでなく、このイリユージョンライブでは、メンバーの皆や先生方とも、とてもよい人間関係を築くこともできました。あつというまにうちとけられたのも人間科学部ならではのかもしれない。そのことも含めて、イリユージョンライブに参加したことはとても意義深いものとなりました。

そして最後に、次にこのイリユージョンライブが行われるのはおそらく来年の初夏のオープンキャンパスです。次回も残像効果、シャルバンティエ効果や色彩による錯覚をはじめ、様々なイリユージョンを展開していく予定です。そのときは今回に増して、さらに充実したものになるように、新入生も加えたメンバー全員で、楽しく活動していけたらと思っています。体験してもらい、「面白かった」と言われることは、私たちが活動する上で大変大きな励みになります。「面白かった」と言われるためにも、そしてなにより、オープンキャンパスや大学祭にきてくれる高校生のためにも、更にわかりやすさを提供し、人間科学部の魅力を感じてもらえるように努力していこうと思います。これからも楽しくわかりやすいイリユージョンライブを期待してください。

「人間を科学する」ということ、少しは興味をもっていただけであったでしょうか。

